

## 第30回島根県国保地域医療学会主幹報告

大谷 順

**要 旨**：2022年10月29日、第30回島根県国保地域医療学会が、二年ぶりに現地（松江市）とwebのハイブリッドで開催された。会には県内国保直診に加え、行政、介護・福祉関係者等約120名が参加した。冒頭、県国診協会長大谷の開会挨拶、30回の節目に際して、歴代会長、国保直診開設者へ感謝状と記念品の贈呈に続き、県国診協30年の歴史を振り返り、ウィズコロナを見据えた今後の地域包括医療・ケアのあり方について提起した後、小野剛国診協会長（青森県市立大森病院院長）による基調講演「これからの地域包括医療・ケア—国診協の情勢も含め—」が行われた。午後からのシンポジウム「ウィズコロナ—これからの地域包括医療・ケア—」では、コロナ禍を踏まえ、地域連携の課題やあり方をテーマに、行政、医療、介護の立場から5題の発表があり、今後の展望などについて活発なディスカッションが行われた。

**キーワード**：ウィズコロナ、地域包括医療・ケア、行政・医療・介護の立場

（雲南市立病院医学雑誌 2023；19(1)：印刷中

2022年10月29日、第30回島根県国保地域医療学会が、二年ぶりに現地（国保会館：松江市）とwebのハイブリッドで開催された(図1)。

会には県内国保直診に加え、行政、介護・福祉関係者等約120名が参加した。

冒頭、県国診協会長である大谷による開会挨拶に続き、30回の節目に際して、歴代会長、国保直診開設者の功績に深謝。感謝状と記念品の贈呈を行うとともに、県国診協30年の歴史を振り返り、ウィズコロナを見据えた今後の地域包括医療・ケアのあり方について提起した。

その後、小野剛国診協会長（青森県市立大森病院院長）による基調講演「これからの地域包括医療・ケア—国診協の情勢も含め—」が行われた。講演では

- ・国診協の状況・・・国診協の主活動ほか
- ・ポストコロナにおける地域医療・・・コロナ禍後を見据えて、現状を見る虫の眼、全体を俯瞰して見る鳥の眼、時の流れを見る魚の眼のような視点を持つことが重要
- ・地域包括医療・ケアと総合診療専門医・・・病気だけではなく人と地域をまるごと診ることのできる総合診療専門医の重要性と、養成するために設立された日本

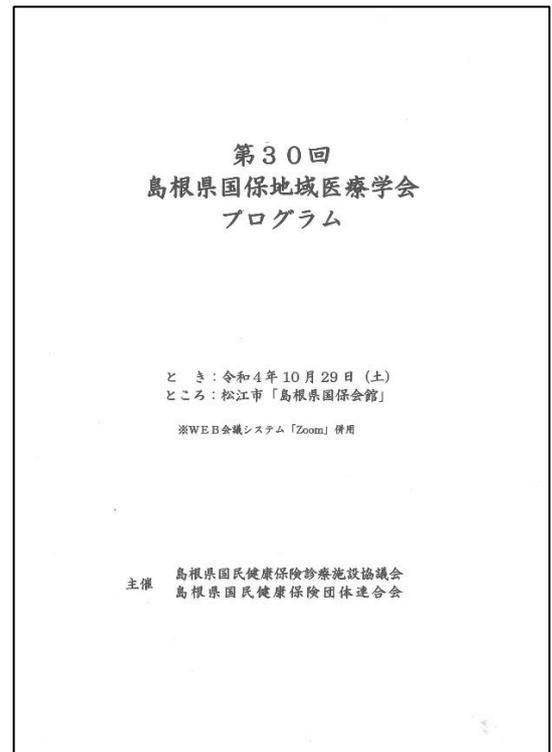


図1：第30回島根県国保地域医療学会プログラム

雲南市立病院外科、第27回島根県国保地域医療学会長

連絡先：大谷順 雲南市立病院外科 [〒699-1221 雲南市大東町飯田 96-1]

E-mail：hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

（受付日：2020年11月13日、受理日：2020年12月20日、印刷日：2023年●月●日）

地域医療学会について  
・国保直診の運営・・・国保直診が将来にわたって持続可能な運営を行うために必要なこと  
等が詳説された。

午後からのシンポジウム「ウィズコロナーこれからの地域包括医療・ケア」では、コロナ禍を踏まえ、地域連携の課題やあり方をテーマに、行政、医療、介

護の立場から5題の発表があり、今後の展望などについて活発なディスカッションが行われた<sup>1)</sup>。

## 参 考 文 献

1) 雲南市立病院編. 第30回島根県国保地域医療学会プログラム. 初版. 雲南市立病院総務課. 2022.

## プログラム

### 第30回島根県国保地域医療学会開催要領

- 1 目的 国保診療施設等開設者及び勤務する医師、その他関係職員並びに市町村国保関係者、保健師等が地域包括医療・ケアの実践を探求するとともに、相互理解と研鑽を図ることを目的とする。
- 2 日時 令和4年10月29日(土)12時30分から17時まで
- 3 会場 島根県国保会館(WEB会議システム「Zoom」併用)
- 4 参加対象者
  - (1) 市町村長
  - (2) 県・市町村・国保組合関係者、介護保険関係者、その他関係職員
  - (3) 国保診療施設等の職員
  - (4) 保健・医療・福祉関係者
  - (5) 医学生・看護学生・医療系学生等
- 5 主催 島根県国民健康保険診療施設協議会、島根県国民健康保険団体連合会
- 6 後援 島根県

## 日 程

時間	内容
12:00	WEB接続開始
12:30	開会 開会のことば 第30回島根県国保地域医療学会 学会長 大谷 順(雲南市病院事業管理者) 主催者挨拶 島根県国民健康保険団体連合会 常務理事 松本新吾 来賓挨拶 島根県健康福祉部 部長 安食治外氏 感謝状贈呈
12:50	講演(110分) 演題 「これからの地域包括医療・ケア～国診協の状勢も含め～」 講師 全国国民健康保険診療施設協議会 会長 小野 剛氏 司会 第30回島根県国保地域医療学会学会長 大谷 順
14:40	休憩(10分)
14:50	シンポジウム(130分) テーマ:「ウィズコロナーこれからの地域包括医療・ケア」 発言者(5名) 島根県健康福祉部医療政策課 課長 内部 宏氏 江津地域包括支援センター 次長 小田みゆき氏 町立奥出雲病院 診療部長兼在宅診療センターセンター長 遠藤健史氏 浜田市国民保診療所連合体 波佐診療所 所長 佐藤優子氏 社会福祉法人豊心会 理事長 武部幸一郎氏 助言者: 全国国民健康保険診療施設協議会 会長 小野 剛氏 島根県健康福祉部 医療統括監 谷口栄作氏

感謝状贈呈  
＜島根県国民健康保険診療施設協議会会長感謝状＞

元飯南町長 山碕英樹氏  
元海士町長 山内道雄氏  
雲南市立病院名誉院長 大塚昭雄氏  
元安木市病院事業管理者 小川東明氏  
元浜田市国民健康保険弥栄診療所所長、  
浜田市健康福祉部健康医療対策課医師・参与 阿部顕治氏  
海士町国民健康保険海女歯科診療所所長 平山敏彦氏

講演

「これからの地域包括医療・ケア～国診協の状勢も含め～」  
講師 全国国民健康保険診療施設協議会 会長 小野 剛氏  
司会者 第30回島根県国保地域医療学会会長 大谷 順

講師紹介

全国国民健康保険診療施設協議会 会長 小野 剛先生

【ご略歴】

昭和58年 自治医科大学医学部卒業  
昭和58年6月 秋田大学医学部附属病院第一内科  
昭和60年6月 町立羽後病院内科科長  
平成3年6月 秋田大学医学部附属病院第一内科  
平成5年5月 秋田大学医学部助手  
平成7年10月 秋田大学医学部附属病院講師  
平成8年4月 町立大森病院長  
平成10年4月 町立大森病院院長  
平成17年10月 市立大森病院院長(市町村合併により名称変更)

全国自治体病院協議会理事  
自治医科大学顧問指導委員  
日本地域医療学会理事長

シンポジウム

テーマ

「ウィズコロナ」—これからの地域包括医療・ケア—

発言者

- 1 新型コロナウイルス感染症を踏まえたこれからの地域医療政策  
……島根県健康福祉部医療政策課 課長 内部 宏氏
- 2 「コロナ禍における通いの場での介護予防の取り組み」～つながりを大切に～  
……………江津地域包括支援センター 次長 小田みゆき氏
- 3 ウィズコロナでのリモート・対面  
……町立奥出雲病院 診療部長兼在宅診療センターセンター長 遠藤健史氏
- 4 未来予想図～人口減少していく中でも住民が望めば安心して地域で暮らし続けるために、診療所を縮小しながら役割を果たしていく方策～

## 助言者

全国国民健康保険診療施設協議会 会長 小野 剛氏  
島根県健康福祉部 医療統括監 谷口栄作氏

## 司会者

島根県国民健康保険診療施設協議会地域医療委員会 副委員長 山田顕士  
幹事 角田耕紀

## シンポジウム発表要旨

### シンポジウム 1

#### 新型コロナウイルス感染症を踏まえたこれからの地域医療政策

島根県健康福祉部医療政策課  
課長 内部 宏

島根県における人口減少、さらなる高齢化により、外来、入院患者数はピークを越えている地域が多い。これに伴い病床数は地域医療構想策定時から約 1,000 減少している。今後在宅医療の推進が必要であるが、地域の診療所医師は減少。訪問看護ステーションも増加傾向だが、中山間離島地域ではサービスが行き届きにくいのが課題。今後新型コロナ対応と一般医療を両立させていくためには、あらためて「かかりつけ医の確保と普及促進」、「各圏域の拠点となる医療機関の維持」、「医療機関及び医療介護の連携強化」に一層取り組む必要がある。来年度は保健医療計画、介護保険計画等の策定の年となり、今年度末示される予定の国の指針等を踏まえ、議論を進めていきたいと考えており、皆様の御協力を是非お願いしたい。

### シンポジウム 2

#### 「コロナ禍における通いの場での介護予防の取り組み」～つながりを大切に～

江津地域包括支援センター  
次長 小田みゆき氏

本市では、平成 27 年度から「いきいき百歳体操」の普及に取り組み、現在約 800 名の高齢者が地域の身近な場に集う、貴重な通いの場になっています。新型コロナウイルス感染症の流行で高齢者の外出自粛が懸念される中も、感染対策に留意しながら活動の継続を進めてきました。その結果、活動の休止は最小限にとどまり、住民主体の活動を継続することが出来ました。行政が行った活動継続のための支援や、コロナ禍で始めた参加促進のポイント活動、病院と共同で作成した介護予防手帳を使ったフレイル予防の啓発等、地域の”つながり”を大切にしたい介護予防の取り組みについて報告します。

### シンポジウム 3

#### ウィズコロナでのリモート・対面

### 町立奥出雲病院

診療部長兼在宅診療センターセンター長 遠藤健史氏

新型コロナウイルスは今後も蔓延持続が懸念されている。発表者は、人との接触をできる限り避け、マスク着用が常識化した社会の中で、新たな働き方を模索してきた。そして、島根大学総合診療医センターでの活動を開始した。東西に長い島根県の中で、距離を超えた連携を行い、大学内外の総合診療医をウェブサービスでつなげ、医学生、若手医師の教育を行っている。遠隔での連携体制を構築した結果、逆説的に対面できる場が貴重なものとなった。目を合わせ、感情と活気を共有することは、人が生きていくのに欠かせないものである。感染拡大に注意しながら、触れあいを共有する場を維持していく取り組みを、医師。地域在住者の視点から報告する。

### シンポジウム 4

#### 未来予想図～人口減少していく中でも住民が望めば安心して地域で暮らし続けるために、診療所を縮小しながら役割を果たしていく方策～

浜田市国民保診療所連合体 波佐診療所  
所長 佐藤優子氏

浜田市国民保診療所連合体は平成 17 年に誕生し、①中山間地域の医療の確保②保健医療福祉政策への参画③地域医療の人材育成④平成 27 年浜田医療センター総合診療科立ち上げ等の役割を担ってきた。その間浜田市の人口は減少を続け、令和 2 年には 65 歳以上の人口のピークも過ぎ、令和 12 年頃には 75 歳以上の人口もピークを迎える。私達は昨年から『未来予想図～人口減少していく中でも住民が望めば安心して地域で暮らし続けるために、診療所を縮小しながら役割を果たしていく方策～』を立て始めた。具体的にはコロナ禍・医師不足前の令和元年の実績を基準に 10 年後の診療件数等を予想し必要な診療体制を検討した。また診療所を取り巻く地域の生活・まちづくり・保健・医療・介護・福祉の状況を予測し、これからの 10 年各診療所は何を目指すかを考えた。今後財政的側面の検討を加え、連合体のこれからについて浜田市を協議していきたい。本学会は国保診療施設の職員と開設者である市町村が同一に介する場である。この機会に是非

多方面からのアドバイスをお願いしたい。

## シンポジウム 5

### 福祉・介護事業者としての”これから”に向けた取り組み

社会福祉法人豊心会

理事長 武部幸一郎氏

コロナ禍の影響が大きく残る現状において、福祉・介護事業はエッセンシャルワークとして、その必要性が改めて認識されている。当法人では、自然災害や感

染拡大等の有事にも、サービスを継続的に提供する組織体制の整備を進めつつ、2024年に控えた診療報酬及び介護報酬の同時改定への備え及び地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めている。誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す中、さびすの質向上を図るとともに、地域に寄り添い、多様な関係機関との連携。協働のもと、地域ニーズに対応した多角化・多機能化を進め、ともに生きる豊かな地域社会をつくるための、社会福祉法人豊心会の実践等(福祉の視点からまちづくり)について紹介する。

# A host report of the 30<sup>th</sup> Shimane Annual Congress of the Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association (JNCA), on Oct. 29, 2022, in Matsue

Jun Otani

**Abstract:** The 30<sup>th</sup> Shimane Annual Congress of JNCA was held on Oct. 29, 2022 in Matsue, Shimane (onsite and online hybrid) after an absence of two years, which included 120 participants. At the opening of the congress, the chairman of Shimane prefectural subcommittee of JNCA, Dr. Otani, gave a speech, followed by commemorative gift presentation for the founder and successive chairmen. Additionally, an ideal way of the future integrated community care system considering 'with corona' was proposed at the 30th anniversary of Shimane prefectural subcommittee of JNCA. Dr. Ono gave a keynote speech titled 'future integrated community care system, and future situation surrounding JNCA'. A symposium titled 'with corona, future integrated community care system', including five speeches, was also held, with productive discussion.

**Key words:**

with corona; integrated community care system; governmental, medical, nursing and caregiving standpoint

---

Department of surgery, Unnan City Hospital, Congress president of the 30th Shimane Annual Congress of the Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association (JNCA)

Author: Jun Otani, Department of surgery, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

Telephone: 0854-47-75000 / Fax: 0854-47-7501